

ATTRACTIVE “CHIKI” SHIRAOI IN HOKKAIDO

～地元学から発見した白老の魅力とこれから～

Aグループ 3年生 小野山創大 杉浦彩夏 2年生 久保田雪花 守屋李佐子

▽ 地元学とは？

吉本哲郎氏によって提唱された地域活性化のための実践法。地元の人が「土の人」、外から来る人は「風の人」と定義される。「土の人」が当たり前と感じている事を「風の人」の視点で共に調べる事でその地域が持っている力に**気づくためのきっかけ**を作る。地元学はないものねだりではなく、あるもの探しから始まり、写真を撮る、尋ねる、まとめる、共有する、という取り組みから**地域の持っている力や人の持っている力を引き出し、そこから生まれる新たな力によって、いきいきとした地域を創ることを目的**とする。「あたりまえこそすごいことだ。あたりまえにあるものを探そう。でも、外の人でないと気づきにくいから、外の人たちといっしょに調べよう。あるもの探しだ。何もないところから、新しいものは生まれない。新しいものとは、あるものとあるものの新しい組み合わせなのだ」（吉本哲郎『地元学をはじめよう』（岩波ジュニア新書、2008年）より抜粋）。

▽ アイヌと自然

大須賀るえ子さん
(しらおいやさしい
アイヌ語教室主宰)

○アイヌ語（白老方言）を伝えていこうと活動している。

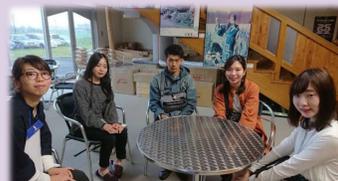
- ・ 一番最初に出されたアイヌ語辞典が沙流地域の方言で作られていて、白老の方言を残したいと思ったのがきっかけ
- ・ 言葉を学ぶことを通じて、アイヌの文化・習慣・考え方も学べる
- ・ アイヌを使って和人が儲けていることが寂しい
- ・ アイヌが無意識に和人化することがいいことと考え、子どもたちには和人の中で和人として生きていってほしいと願う風潮があり、アイヌ語の伝承がなされていない



大河智桃子さん
(アイヌ民族文化財団職員)

○アイヌの伝統文化を継承しようと活動している。

- ・ アイヌの歌や踊りには地域によって差があるうえ、自分たちの地域の文化を大切にしたいアイヌもいる
→ただ「アイヌ」とひとくくりにしてはいけない
- ・ 歌は阿寒湖、踊りは白老といった地域文化の融合も考案している
- ・ アイヌ民族文化財団の中では和人とアイヌと一緒に働いている



手塚日南人さん
(ポロトの森エコミュージ
アム推進協議会理事)

○アイヌが昔住んでいた森を守り、その生活を伝えていこうと活動されている。

- ・ ネオアイヌが大切にしていることとアイヌの方々が大切にしていることの折り合いをつけるのは大変だが、双方が納得して和解することが大事
- ・ よそ者の自分だからこそできることを考えている
- ・ よそ者の視点から白老やアイヌの良さを発見し、新しい事業を考える
- ・ あるプロジェクトを立ち上げたとしても、人の価値観は変化するから常に新しいアイデアが必要



岡田育子さん
(アイヌ刺繍サークル
「フッチコラチ」主宰)

○アイヌ刺繍を身近なものとして伝えていこうと活動している。

- ・ 伝統的には黒・紺の生地に、赤・白の糸で刺繍する
- ・ 布・糸をカラフルにすることで、表情がゆたかになり、同じ模様も違ってみえるため、様々な人が手に取りやすくなる
- ・ 文化は常に変化するもの
- ・ 昔と今のアイヌ文化は違っても、アイヌ文化であることには変わりない、その時、その人の文化があっても良い
- ・ アイヌの技術は絶対変えない
- ・ 刺繍は言葉が伝わらなくても出来る、伝えやすい



▽ 自然

白老の自然には、人々を惹きつける魅力ある資源が豊富に存在する。そして、この自然は、人と人とを繋げ、アイヌと和人とを繋げる、コミュニティを形づくる場所としての機能も担っている。

森

- ・ アイヌが住んでいた森
- ・ キノコ類、山菜などの山の幸

水

- ・ 自然の川
- ・ カムイワクツカ
- ・ 湖
- ・ 温泉
- ・ 海、海の幸



気候

- ・ 北海道の中でも比較的温暖な気候
- ・ 積雪が少ない
- ・ 「花粉が少ない、台風が来ない、梅雨がない」



▽ 食

白老の食は、清らかな水や火山由来の地熱など白老の豊かな自然からの恵みである。白老の人々は豊かな食を白老の象徴として誇りにしており、それは外から来た人々も魅了する。



じゅわっと甘さ広がる
マンゴー in 北海道
(桑田さん)



身も心も温まる
アイヌの伝統料理 オハウ
(ピラサレ)

ほっぺがとろける～
白老牛
(白老牛の店 いわさき)

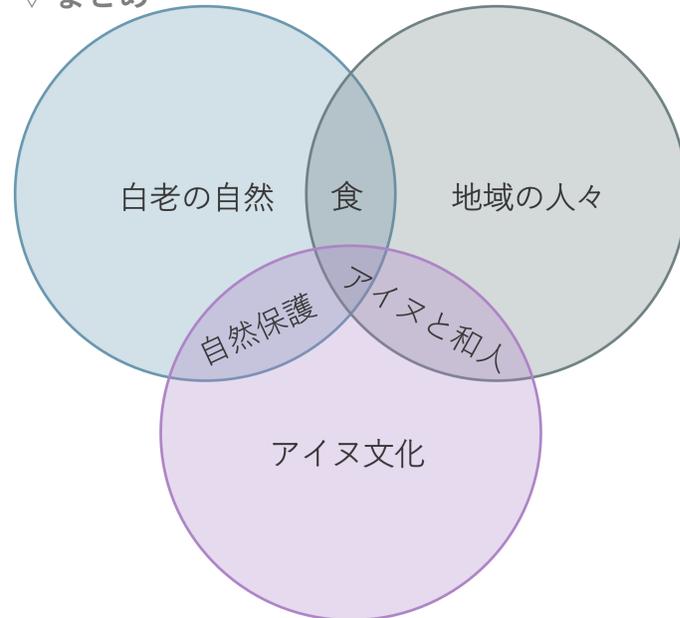


きのこ嫌いも思わず絶賛！
天然キノコ鍋
(河庄)

海鮮ピチピチ！
てんぷらサクサク！
虎杖浜産 海鮮丼
(三春)



▽ まとめ



アイヌ文化、白老の自然、地域の人々の3つが重なるところに白老の魅力を発見することができた。2020年4月には、アイヌ民族博物館がリニューアルし、**民族共生象徴空間ウポポイ**としてオープンするので、特に観光コンテンツとしてのアイヌ文化に注目が集まる。その中で、**観光開発が白老の自然に与える負の影響についてどの様に対処してゆくのか。アイヌ文化を観光対象とすることについて、和人体内でもアイヌ内でも賛否がある中でどのように両者の理解を得**

て外部に発信するのか。この2点がこれからの白老の観光のあり方において特に注目が集まる課題であると考えた。今回の研修でインタビューをさせて頂いた方々、中でも上記の4名のお話はこのような課題を解決するヒントを与えてくれるものであり、そこから**白老の魅力**を構成する**3つの要素の共鳴**に繋がり、更なる白老町の魅力発信に結びつくのではないかと考える。